



園だより ～きづき



キ3園 第33号

R8年7月1日

キッドワールドサード保育園

園長 是永 妃富

・梅雨明けが待ち遠しい季節となりました。じめじめした日が続くとちょっと心が沈みがちですが、楽しい遊びを保育士と行っています。汗をかき、笑顔で過ごせています。

さて、7月に入りました。水遊び、プール遊びが始まります。この時期ならではの経験をしていきます。暑い日が続きますので、ご家庭でも十分な睡眠と朝食を心がけ、元気に登園できるようご協力をお願い致します。

7月行事予定

- 8日 (水) 通報訓練
- 10日 (金) 身体計測
- 18日 (木) 健康診断

お弁当日は
18日(土)です



お知らせ★お願い



0歳児さん 仲良し



2歳児さん 傘をさしたよ～



1歳児さん・・・カメラ
を向けると緊張して
います

- ・7/1 より水遊び・プール遊びを始めます。チェック表の記入を忘れずにお願い致します
気温の低い日、雨の日はプール遊びはできません。
- ・保護者の方の1日保育士体験を受け付けます。希望の方は担任に声をかけてください。
- ・土曜日休みの時は、はいチーズで欠席入力をお願いします。(忘れずにお願い致します)
- ・子ども達は汗をかいています。毎日入浴して、シャンプーもするようにお願い致します。
- ・9/12(土曜日)は、お祭りごっこを行います。

クラスの様子

0歳児さん

少しずつ園でのリズム
ができるようになってき
ました。。名前を呼ぶとニ
コッと微笑む姿はとって



1歳児さん

よく遊んでいます。ふと見
ると0歳児さんと遊んでいる
姿があります。自分達の方が
大きいと気づいているよう
です



2歳児さん

雨の日は傘をさし、長靴を
履いて歩きました。とっても
嬉しい様子で、チャップ、チャ
ップと水たまりに入っていました。
みんな、笑顔でした。





キッドエッセイ 81

子どもが望む大人の世界⑨～17の子どもの願い～

牧野 桂一先生

子育ての参考をかいてくれています。お読みください



前回までに紹介しきれなかった⑮番目にあたる「ユーモアに富んだ保護者になる」の項目以下について、今回も同じように紹介していきたいと思います。

早速ですが、今回は、⑮番目にあたる「ユーモアに富んだ保護者になる」ということから始めていきたいと思います。



最初に、子育てにおける「ユーモア」ということについて考えていきますが、子育てにおける「ユーモア」というのは、単にその場をなごませるということだけではなく、子どもの心の成長や親子関係の構築に非常に重要な役割を果たしています。ユーモアを理解し、日常的にユーモアを交えて触れ合うことは、子どもの脳の発達と認知の柔軟性を刺激します。心理学や教育学の視点からみてもこのユーモアには、様々な素晴らしい効果があると言われていきますのでそれらのことについて紹介していきたいと思います。



まず最初は、親子の絆を深める「アタッチメント(愛着)」を形成するということです。

親子のユーモアを交えた話の楽しいやり取りは、親子の中にお互いの笑顔や笑い声を生み出します。親子で一緒に笑うことで、子どもは、「自分は受け入れられている」「大事にされている」と感じ、「ここは安全な場所だ」という強い安心感を抱きます。この笑いによって子どもの脳内には愛着ホルモンであるオキシトシンやエンドルフィンが分泌され、子どもは「自分はこの場に人間として受け入れられている」ということを深く感じ安心感が醸成されるのです。また、日常の親子の何気ない笑いの積み重ねによって、親子の関係性の質を高めるとともに親子の信頼関係の強固な土台を作ることにもなります。



次に、感情のコントロールとストレスの緩和ができるということです。子どもと関わる子育ての現場では、親子であっても時にイライラしたり緊張が生まれたりします。ところがこのユーモアは、その張り詰めた空気を一瞬で和らげる「安全弁」のような役割をしてくれます。偶然起こってしまった失敗やトラブルをユーモアで包むことで、子どもは「深刻になりすぎなくていいんだ」という心の余裕を学び、認知的再評価、つまり状況の捉え直しの力が育つのです。例えば、おもちゃの後片付けをしない子どもに対して、「お片付けしなさい！」と叱る代わりに、「あ！おもちゃたちが『お家に帰りたいよ～』って泣いてるよ」とユーモアを交えてコミカルに誘うことで、子どもとの対立を回避し不必要な衝突を避け、子どもの主体的な行動を促すことができるようになるのです。

また、ユーモアのある関わりの中で子どもの認知発達と柔軟な思考力を育成することができるようになります。「言い間違い」や「ダジャレ」などのようなユーモアは、子どもにとっては、言葉遊びと言語概念を広げるための高度な知的な活動で認知発達に必要な言語能力や言葉の文脈を理解する力を育ててくれます。また、ユーモアは「予測していたことと実際の展開とのズレ」から生ずることがよくあります。このズレを「おかしさ」として受け止める経験は、物事を多角的に見る柔軟な思考力(クリエイティビティ)を育て、「ズレによる創造」を楽しむ心のゆとりを生みだします。



さらに、ユーモアのある親子の関わりは、子どもが社会性と共感性を獲得するのに大変役に立ちます。子どもが、他の人と共に笑い、楽しさを共有することは、周りの世界の中で生きていく社会性の第一歩になります。「どうすれば相手が笑ってくれるか」「何をしたら相手が嫌がる(笑えない)のか」という実際の経験の中から、子どもは周りの人たちの視点を学び、相手の気持ちを推し量る「共感性」や「共有性」の心の理論を身に付けていくことができます。このようにユーモアのセンスがあり、実際に楽しめる子どもは、集団生活の中でもコミュニケーションを潤滑油にして他者と良好な人間関係を築くことができやすくなるのです。

最後に子育てにユーモアを取り入れる際のポイントについて幾つか紹介しておきたいと思います。ユーモアが最も効果を発揮するのは、親子関係の中に「信頼感」と「安心感」がある時です。どこまでも親子の信頼関係が大切と言うことです。



子どもが仕掛けてきた小さいいたずらや冗談に、親が全力で乗って一緒に楽しむと子どもの自己肯定感を大きく高め、自尊感情を育ててくれます。

親が完璧な正論だけで向き合うよりも、時にはちょっとした「隙」や「遊び心」をみせる方が、子どもの心には深く届くことがあります。ユーモアには子育てという長い旅路を支える、最もあたたかいツールのひとつとすることができるかもしれません。

一方、子どもの人格や失敗を揶揄するような笑いであったり皮肉やからかいはユーモアにはならないばかりではなく、子どもを傷つけることにもなりますのでくれぐれも避けるようにしてください。このようなことは逆効果になり、親子の信頼関係を崩してしまうことにもなってしまいます。

今回もまた、紙面の都合で紹介しようと思っていた項目を全て紹介することはできませんでしたので、次に回させていただきます。次回は、⑯子どもの名前をいっぱい呼んであげる ⑰人として美しい親になるなどについて紹介していきたいと思います。



クラスの活動の一部です。みんな自分を出しています

